〈座談会〉

# 原爆と広島の医師

「朝」　この写真は焦んだ空のもと、原爆ドームの姿には墨水の入船を思わす雰囲気を浮き上がらせた画面となっています。この墨水後は明るい今の平和とだがっている未来への不安の中の、平和祈び歌る不安の無理と平和持続を願う祈りの人の姿の象徴ではないでしょうか。

（写真・鈴木俊之）

**座談会出席者**

今中龍雄
鈴峰今中医院院長
広島市西区天満

川堀耕平
医師会広島副会長兼
医師会広島副支部長
広島市西区中広町　外科・胃・腸専門科

門前徹夫
医師会常任理事
広島市舟入川口町　内科

坂下英明
医師会常任理事
広島市舟入幸町
神経学

**司会**

（六十二年六月二十五日　於山陽新聞社報道部）

昭和二十年八月六日、広島は人類初の原爆の洗礼をうけた。市内にいた二万人の医師のうち、二千人が罹災した。その惨状のもと、広島の医師たちは、ただひたすら救護にあたった。その姿は広島医師会が出版した大冊の回顧集『復興』（昭和五十一年三月）や『復興Ⅱ』（昭和六十年十二月）の各所にみられるが、いま広島の医師たちは、消防の被爆者援護に、あるいは核戦争防止国際医師会議（IPPNW）など、政治にとらわれぬ人類愛の作業をしている。

そこからどのように生まれるか、この座談会の背景にある精神的風土を、ご推察いただければ幸いである。

川堀耕平

今中龍雄

門前徹夫

坂下英明

## 当時とその後の悲劇

**坂下**　四十二年まえ、広島は原爆の洗礼をうけまして、多くの犠牲者を出しました。原爆のもたらした医療体制も甚大でありまして、惨憺たる結果が出たわけです。「復興」のなかの今中先生の文章を読みます。原爆が広島と長崎に落ちた、その不幸なことを実際に体験されたわけで、思い出したくないかもしれませんが、早速そのことからお話いただいたらと思います。

**今中**　まあ、人間というのはわかんもんだと思いますねえ。生死は紙一重ですね、まさかねえ、あんな原子爆弾というものが落とされるなんて夢にも思いませんし、しかも爆弾が爆発となった直後ですからね。警報の出ておった時間は私の記憶では二十分か、三十分か、そう長い時間ではなかったですね。あの日私は博多港から五百メートル沖の貨船へ荷物を引き取りに行くつもりでした。前の日に荷物を貰って帰宅されたんです。明日取りに来ると言ってそれを押しつけて、帰かろんというんですよ、いつ空襲で焼かれるかわからんぞ、と言って。

**川堀**　僕はあれを読んで、いつだったか先生にお会いしたことがあるんですが、先生は診療に使う机とか家財道具ですか、そういうのを貰ったとか——。

**今中**　あれはね、当時の西松村、今の佐伯町浦崎ですが、無医村でしてね、私に来てくれということになりまして——、というて診療所があったわけでなく、民家を一軒、住む所と診療をする所を借りてもらって、民家ですから診療机もベッドもある訳でなし、何もない。それを求めに五日の日に広島に出たんです。警察の防空壕をシリヤケー本借りて、弁当を作ってもらって行く支度をしたんですが、どうも気が落ちない、行きたくないんです。

**坂下**　虫の知らせですかね。

**今中**　何とな？　気がすまない、行きたくない。そのうち隣が迫ってきましてね、ちょうど照りつけるシリシリと焼けつくような感じなんです。今日はやめた、明日にしようということになったんです。とにかく、警察官を隣組になったのを通い朝食を始めました。しばらくしてアッと飛行機の音が聞こえるんです。敵国になった民だから日本の飛行機が飛びまわるんだなあと思いながら食事をしていたら、ピカッとした。ちょうど家のす

く後が楽の線路なんです、峠々国道の様子見てましたらっと、ちょっと国道の方に向かって、今の二号線ですね。

**堀下**　鉄道活動はいつ頃から始まりましたか。

**今中**　役場に臨時鉄道部が出来たのが、かれこれ役場の十二時頃様ちゃいだったんでしょうね。その間にも役場の人達は色々準備をなさったんでしょうが、その時、五日市に残っているという筑者は二人しかおりません、それもかなりお歳の方でありたんです。とにかく鉄道活動と言いましてもね、何も来ないしょう。それからはなんたって機関車からピタッと来ないとか、信号、線花といったものが運ばれてきました。ツーキュロに近くらいが無一杯の出張を何をしてよいのかなぞ、わかりませんでした。治郎さんなんてことは出来やしません。

**堀下**　以前、黒澤治郎の弟さん先生にお聞きした時も、あの時あったのはツーキュロと生理食塩水ぐらいだったと言っておられましたね。

**今中**　かなり時間がたってからは、リンゲルを十二入っているんですが、リンゲルが手に入るまで時期には私達ここにはいませんでしたから、鉄道の手先にしておった人から来者が出ぬうちまで来ておるんだから、すぐこっちの方へ帰ってきてくれということであったものですから、それにゃあということで、翌日帰ってきました。

**堀下**　それらにも入の一杯という話でしたか。

**今中**　そうなんです、それぞれ身者りを頼って駆帰ってますから、急忙の時案に帰っているという人は無のそれで、知と何かの仕事を頼って帰っていたんです。一応も出けがをはかってしまう。頭の髪は抜けてますし、二三日たったらの頃から熱が出て、それも高熱、それから毒物がおこる、特に血便、食べ物からではなくて、熱後ってかられているんです。三日目くらいからですね、熱と血便。

**堀下**　リンゲルとか抗生物質とかある訳じゃないんですからね。

**今中**　医の方ではどうか知りませんが、田舎の方にはリンゲルなんか入ってきませんね、何しろあげるを言ったって、何もしてあげることはできない、薬もよっぽどきれいにしてあげるくらいです、何をしたのかわからないまたたいってことですね、薬の効かない十数キロ離れているのに。

**今中**　そうですね、気がついてふっと見上げてみると谷底の渡船場の方が上に吹き飛ばされてしまっているんですね、これはるいことになったんだ、と、何とろく、次の音が聞かないものですから、飛び散ったガラスの上を注意しながら前の渡船に出てみましたら、広島の方に何のきの、夢が浮いているんです、あの二重と言いますけれど、物好は一つだけ。の別ですね。

**堀下**　それは無線に見えましたか。

**今中**　雲とうない雲だってっきりあれんて見えましたね。そのうちに広島の人が国に出ますね、世間がどうか何だろうかと思って、あれが先ったとたんか、陸上急傷をしているうちに、これはガラで長い何かが落ちられたんでは広島かと言って話をしておりました。それからそうですね、七二言いかを知れませんが、黒い雲がぬってかなたこちらへ流れてくるんですよね。あれは何じゃろう、何じゃろうと言っておるうちに段々と近寄ってきて、見るとの黒雲であって……。

**堀下**　広島が焼けて黒いということですか。

**今中**　次体東西の白いミスは別問題ていた、色のついたところの雲は何と言ってしまって無いんです、変なんから何だってしまっていな、人の顔と言えの形と言うとも、一つの異様な黒い塊です、それに雨が流れている、雨は降けている、火事の後、爆風によって全部ひっかっているんですね、焼けかして雨が流れている、そしてこいつとこの方がくっきりと浮かんだような感じですね、近ついて見ると、顔も黒焦の人の顔というもふくれたというか、ふかけたというか、気をつけて見れば人間の顔とわかるけれども、うっかり見ると人間の顔とは見れません。

**堀下**　やはり焼けてられたかなって……、

**今中**　知識は薄に残っているのは、焼けてくれという感覚ですね、後になって広島へ入りました時には、水が飲みたいとか、水をくれというのが山側れていました。

**川端**　何時頃ですか、黒い雲団が来たのは。

**今中**　そうですね、朝に早かったですね、朝の黒団が来たのは九時過ぎくらいでしたかね。

**川端**　その黒団がやって来た道路というのは今の八幡線の工業大学側の道路のことですか。



か、

**今中**　そうです、あの道路がずっと国道側の方に向かって、今の二号線ですね。

**堀下**　鉄道活動はいつ頃から始まりましたか。

**今中**　役場に臨時鉄道部が出来たのが、かれこれ役場の十二時頃様ちゃいだったんでしょうね。その間にも役場の人達は色々準備をなさったんでしょうが、その時、五日市に残っているという筑者は二人しかおりません、それもかなりお歳の方でありたんです。とにかく鉄道活動と言いましてもね、何も来ないしょう。それからはなんたって機関車からピタッと来ないとか、信号、線花といったものが運ばれてきました。ツーキュロに近くらいが無一杯の出張を何をしてよいのかなぞ、わかりませんでした。治郎さんなんてことは出来やしません。

**堀下**　以前、黒澤治郎の弟さん先生にお聞きした時も、あの時あったのはツーキュロと生理食塩水ぐらいだったと言っておられましたね。

**今中**　かなり時間がたってからは、リンゲルを十二入っているんですが、リンゲルが手

いますか、それと道路で歩行困難なかたことろは法場とか、船の役所から情報を流してくれました。

**坂下**　先生が初めて広島市内に入られたのは原爆二週間目くらいだったんですか。

**今中**　やられたその翌日ですね。

**坂下**　その時の光景はどうでしたか。

**今中**　残っているものと言えば電柱です。電線のたれ下がった電柱が残っているだけです。二週間の電車通から始める市内は一面の焦野原で、鉄筋の建物がポツン、ポツンと点在しておる。比治山がそこに見えるおる。広島はこんなに焦かったのかと異様な感じを受けました。翌日ですから死体の処理も済むされてないんですから、少し動けるような人達は水泳へ修しようもってという時期でした。死んだ人はそのままです。割りと涼しかった黄昏もありませんでした。

**岡崎**　道路は歩けたんですか。

**今中**　どこにも歩けたという感じですね。焦けたところは道路もなにもないですからね。焦け残ったところ、今の広電の電車の駅のあたる辺り、あのあたりは焦残ったからはしたけれど、焦けるものはまぬがれたですかね、歩くことは歩けましたね。

**坂下**　皆さん南風の方を求めてということですか。

**今中**　結局はそうですね。皆それを使っていったんですね。自分で動けるような人は自分で行っておりますし、身のある人で動けない人は近所の小学校というところへ、当時では言う演技場ですか、後になっては軍隊の人達によって移されていたようです。

**坂下**　門脇先生、今のお話、発熱というのは直接的な放射線障害による症状なんでしょうか、あの時の死因を見ると、先生方が言われたように、歩いていって、ころんだりして倒れて、出血したというような傷、傷風による外傷、歩けるから直接的な放射線障害による死にたいですね。

**門脇**　初期障害によって直の結果が発現した結果です。これが2週間のピークですね。白血球が減ってきたものですから感染症を起こしやすい。だから急性放射線障害は三週間で治療死んでいます。だが今だに続くのが、二次放射能で、傷を受けていないのに放射線をとった人がどんどんどんなくなっていることです。やはり残留放射能によるものだと思いますが……。

**坂下**　皆さんが亡くなった体験というのは、外傷とか火傷とか、急性の放射能障害によってなくなられる方があり、残られた方は次に出てくるのが白血病ですね。

**門脇**　そうです。白血病ですね。被爆を昭和三十年頃までがピークですね。

**岡崎**　大体十年ですよね。

**門脇**　そうです。十年が白血病。その後が癌ですね。

**坂下**　白血病と、その次にやられたのが甲状腺ですか。

**門脇**　放射線に一番弱いのが骨髄、特に白血病です。リンパ球も弱い。赤血球の方は抵抗はあります。一旦減少しますと徐々に増えるが遅いですから貧血がずっと続く訳です。それから甲状腺、特殊なもの……、歴史的には癌ですね。放射線（放射線影響研究所）が原爆症を持っているのですが、その統計が一番確実ですね。

## 海外での被爆者診断

**坂下**　これは広島の医師の集めたとして研究した結果がこういうデータとして残ったんですね。チェルノブイリはそういう意味ではやかりのようですね。急性白血病の症状は日本のデータでわかっている。ケタを言っても、広島の百倍くらいの方が死ぬ状態だということですから、この影響は本当に広島で映っ訳ですね。広島の医師により、被爆四十何年のデータというのはがっちり集められているんですが、これで全世界での原発所の起きた場合の教訓にされると思うのですが……。

**門脇**　先生方は世界保健機関の一員として、北米、南米と行かれていますが、南米には広島の方が多いんですか。

**門脇**　国によって違いますが、ブラジルは知っている人、長崎県も多いですね。南米はブラジル、アルゼンチン、パラグアイ、ボリビア、ペルーと行きましたが、移住されている被爆者は総数二七万名くらいです。男女比にして半々で、北米と南米に渡ったころは、ブラジルでは移住した人が多いのですが、北米の場合は戦後三世の人達、勉強のために日本に渡った人が多いですね。従って被爆者が十五から十六歳、中学生、高学生の時に被爆しております。

**坂下**　先生方が行かれた南米の健診は何年前から始まったんでしょうか。

**門脇**　一昨年が初めてです。去年が二回目。今年は北米被爆者健診が来年あります。南米は来年ですね。隔年にするようです。

**坂下**　北米の被爆者健診は今年で三回目ですね。

**門脇**　最初が昭和五十二年です。発端は大内先生医師会長が米国を長と一緒に五十一年に国連に行かれ、その帰りにロスへ寄って被爆者の方々との懇談会で陳情を受けられたのが発端です。すぐにロサンゼルスの医師会と被爆補償を起ばれたのです。それで五十二年から毎年の夏日本理事長と出張として第一回が実施された訳です。

**坂下**　ワトルーキーの時のことろにロスの医師会がありますね。あそこで大内会長が被爆補償に調印されたんですよね。現在米の被爆者の方達は何も特別の扱いというのはないんでしょうか。

**岡崎**　広島の被爆者と比べて特に変わったことはありませ、医療費が高いですから、治療を受けてない人が多いですね。

**坂下**　それは広島の被爆がないということですか。

**門脇**　それと放射の問題もあります。

**坂下**　外国にかられて上日本人の集団の検

のゆで方法しておられるかなんですかね、そういう所へ日本人の医師が行って相談しあげる——。

■解　まあ一つの心の治療ですね、アメリカから何年五、六人日本に来て治療を受けてますね（笑）治療、向こうは技術がかなり厳しいですから。

■解　歯薬の方も医療費は高い訳ですか、

■解　医療費が高いという話の問題で、保険がもうパンクしています。

■解　医師が医療費を国に請求しても、おりおりさこないということですね。だから自費診療というものになるんですね。

■解　例えば薬は一日に一作しか認めません。

■解　今、呼吸器系が第六次全国癌患者調査で行っておられますが、ロサンゼルスくらいでしょうか、北米では血液センターとして、持ち込って検査をされられますね。異常データを血液センターで整理して、どういった治療をどうさいというのを個人に送っています。その中で、日頃検査を北米に送いた時に、大体一人か二人くらい日本に連れて帰って検査しないといけない人がおられるようだというようなことでしたが——。

■解　大体大学病院で治療してますね、時に薬事病院もあるそうですが、やはり向こうは医療費が高いですから大変だと思います。

■解　向こうへ行って成功した人とそうでないグループがある訳ですね。

■解　六十五歳を過ぎますと、今度は国が医療費をもってくれますから、六十五歳までは頑張れないと思います。今年切革命が次六十歳くらいになりましたね。特に北米は女性が法的に多いですね。南米は女性の割合は？。

■解　大体何人くらいですか。

■解　南米で人ですけど、今六百人くらい滞留されています。南米では百七十人くらいです。中には中し出ない人がいます。医療者ということになると主治医後に入れないようです。

■解　日本もそうですが、要するにその時に医療したグループの人達も治十何年か経つ訳ですから、高齢化が目立ってきていますが、在北米医療者の人もそ、年齢はかなり高くなっていますね。日本の現状では医療機関等で治療を受けておられますが、その集団ち三十数万ということで大学入院が減ってきておりまして、あの辺りに行っておられる方も高年齢の方が多いんですか。

■解　さっきも申しましたように、大体六十歳くらいになっていると思います。十五、十九歳での結婚が入側ですから、五十七、八人から六十歳くらいですね。

■解　だから色々な病気も出てくるんですね、だからこま健診は続けていかないといけないんでしょうね。しかし、南米では相談だけというのがちょっと残りますね。

■解　だからいろは、サンパウロに今度日系の病院が出来ます。私が去年行った時に、日本政府が一億、経済界が一億、現地（日人会等）が一億ですね。ブラジルで（日系の人が八十万人くらいいますが、それでも少数民族ですね、やはりポルトガルとかスペイン、イタリアが多いですね。

■解　サンパウロに出来るんですが、それが日系の人達の様の病院になるんですね。これは日本の大学から医師を派遣するということがあるんですか。

■解　向こうでは医師が余っています、皆都市に集中しこね、勧めるところがないんいですね。だから一日四時間しか一つの病院で働けません、ですから一日働いて二時ルの収入ですかられたものです、フルに働



いて時にしかも収入ですね、大したことないですね、だから公共医療をやって頑張る訳です。

■解　ケニアの病院では最大の第一外科から血液を送って別々のデータをとっていますけれども、日本人が行って南米まで診療するということは出来ない訳ですね。

■解　ライセンスの問題がものすごく厳しく、向こうの国家試験を何しろポルトガル語ですからまず通りません。ボリビアに日本政府が三億円の病院を作りましたが、ものすごいインフレで病院がたたない状態なんです。医者がストしましたよ、ブラジルは世界一の健康王国、今度は何少がれたない訳ですが、何子を私ら教会員でそれぞれ状態です。南米は日本の二十三倍です、あれだけの面積をもって、どこでも健康王国になったのかわかりませんが、地下鉄、ダム建設に投資しております。熱帯林も開発ですね、経済力で世界のため自動車も日本製は一切来っていません、全部輸入禁止です、アルコール車が二割です。

■解　私もモスクワへ行った時、日本車は全部見せませんでした、それも輸入禁止ですね、日本産業にだけトラックがありました。

■解　しかし、アルゼンチン、パラグアイは日本車が出来ってますよ。

■解　南米の健診というのは、何ヶ国まわるんですか。

■解　ブラジル、パラグアイ、ボリビア、アルゼンチン、ペルーの五ヶ国ですね。被爆者は少ないんですが、胃癌がありますからね、サンパウロまで二十七時間かかります、一日自動車で四百キロ走りますからクタクタですね。

■解　その百七十名位があちこちに散らばっているんですね。

■解　まあサンパウロが一番多く、後はリオ、それからブラジリア、ブエノスアイレスです、パラグアイとボリビアは移住地へ来て行きます。

■解　南米民というとアンディオでしょうが、民族にはやはり在住ですか。

■解　インディオもですが、黒人もかなり入っていますね、やはりポルトガル、スペイン、イタリアが一番多いですね。政府は法治主義を徹底しています。問題民族はなるべく排除しないように——。例えば日系の人達が日本人の学校を作るなどの場合は禁止なんです。例外的には国外居住者として認めていますけど、治安はすべて悪くて、強盗、スリ、多いですね。一度びっくりしたのは、一時半サンパウロに行った時、強盗事件の報道先がおられないので、どうされたのかと聞くと、車を車庫に入れる時に殺されたということなんです。銃器にしたんはサンパウロではパスポート、日本から出ていると、ナンバープレートで出身がわかるので、駐車場に置いてある間に金銭取られるそうです。ペルーもそうですね、ペルーもそうでいったんですが、駐車場に入れている間に土産品がそっくりなくなっているんです。

■解　食べものはどうですか。

■解　食べ物は安いですね、肉などは五キロで日本円にして四百円くらいです、毎朝新聞で為替レートを見るのが楽天人の日課ですね。

■解　物価は安いんですか、生活費とかを上げる訳にはいかないですね、しかし、南米の健康というのは大変な状況ですね。

■解　そうですね、行ってまはそうでもないんですけど。

## ―IPPNWのこと

**坂下**　これも広島の話題の際のとっぱな後も尾を引き続けていかれると思いますけれど――、ところで核戦争防止の国際医師会議（International Physicians for the Prevention of Nuclear War）において広島との関わり第一回大会からありますが、私もこの間モスクワの大会へ行ってきたばかりなんですが、三年あとの参加でかなり盛り上がっていました。モスクワの前がドイツのケルンでしたが、あの時は川端先生が行かれた訳ですが、あの時の印象を何か――。

**川端**　モスクワでは三千人ですが、ケルンの会場は、五千人くらい集まったと思いますが、地元の看護婦さんとかコメディカルの人も多かったそうです。実際は医師が千人弱だったそうです。そういう意味ではモスクワへの参加は多いですね。ケルンでは会場になったところがライン川のほとりの国際見本市の建物でした。ケルンのシンボルマークが三角形のとんがった三本の七聖会（ドームとその下にラインが入るデザインなんですが、その三聖のドームの真向かいに、国際見本市の大きな建物があります。ヒトラー・ナチスが三万人のユダヤ人をここへ一時収容し、ここからあちこちの収容所へ強制移住させたということです。ケルン大会のメインテーマは、「共に生きよう、共に死ぬまい、地球上の生命を守ろう」というものでしたが、いいテーマだと思いました。大会は昨年五月二十九日から六月一日まで四日間あったんですが、印象的なのは、大会終了後の旅行でしたね。メインテーマにそった核戦平和の体験旅行で、実施整理でした。

**坂下**　ディスカッションしながら色々まわっていくというものですね。

**川端**　そうです。西南ドイツのフライブルグを基地にしてノッキンゲンの自然保護運動や、ボーナン郊外のワーバリンゲンにあったユダヤ人や被害者の墓、また秋シュルチー収容でもれた反核運動の街ブールルヘル、シュヴァルツヴァルト「黒い森」の想林が大気の汚染や酸性雨でかれ枯れていく状態を直接現地で見て、すごいい勉強になりました。

**坂下**　私は参加しなかったんですが、資格取得は参加して、一週間のコースで医療機関もお守りにまわったようです。

**川端**　大会に行かれた方は語だけでなくて、その後、ディスカッションしながら各国の人と語り合ったりするのがいい意ってますね。小旅行でも一緒に流浪き、食事をして飲むとも、相互理解になりますね。

**坂下**　あのなかいうのは、色々な人と仲良しになるんですね。人間というのは話せばわかるというのが多の会ですね。これが会の特徴と思えなんですね。核問題についても、力意見をぶつ議論するのではなくて、お互いに話し合えばある程度解決出来るのではないかということですね。

**門前**　私も参加だけでなくて、サンフランシスコ大学で医療問題の話をしました。聞いてくれるのは全部医学なんです。一番熱心な方だったのが、通訳についてくれる。それ、ある地中アルゼンチンの原子力発電所で事故があり、十一人位被爆しているのですが、そこの原子力発電所で患協会をしました。北米では広島の医師会と姉妹提携を結んでいます。ボランティアの人達も来て手伝ってくれますね。

**坂下**　ケルンの時もボランティアの人がかなり出ていたようですね。モスクワ大会の時も手伝にまわったようです。



**川端**　核をなくすことは非常に難しいのかもしれないと、核問題はそうでもないと言われていますね。現在広島の核があっても、核弾頭の先につめられている、例のプルトニウム、それさえはずせば簡単なことなんですね。広島の原爆の時が、わずか〇・〇一五グラムで、現在広島で二万グラム（原二次爆）の絶大力はもグラムと言われています。プルトニウムの量にしたら、全部合わせて百トンだそうですが、これさえはずせばいいんですね。核弾頭のほうは解体すればそこまで持ってゆくのが問題です。軍事産業とか政治的対立がからんでくる。これが大変であって、やる気になれば出来るのですっと言えて、先ず神をコボコボはねばいけないんですね。

**坂下**　この間のソ連の大会では面白いことを言っていました。先生方の様子を見てすけれど、核兵器をとる為ならいけない、これは絶対にしない、今作っている核弾頭は壊してゆく、そうすれば向こう四年間は使うんですね。平和目的のために使ってゆけば、段々に核弾頭はつくっていう話をされている方がいました。

**川端**　それはどこの国の人ですか。



**坂下**　ポーランドとかにポランティアの人が出ていましたね。日本ではちょっと難しいのでしょうね。英語をしゃべれない人も多いんです。私はポーランド語でやられたんですが、困ってしまいました。関いたらポランティアの方なんですね。

**川端**　それと、今年も長崎代表さんもそれ無料コーナーを作っていましたが。

**坂下**　作ってすていいんですね。普通に陳列付に行ってみると、スイスからの看護婦さんが、このポスターをもってもいいかというので、いいよと言ったら、とても喜んでいましたが、日本からのポスターは人気がありました。現地へ行って、自分達は日本から、とかを広島から来ていますだということを言えるのはとてもいいことですね。また、私がケルンに行っての一番大きな収穫は、平和運動の意義でした。今までは戦争をしないで良い子を産めばいいというのが平和運動の目的だと思っていたんですが、それ以上のものがあるということですね。この地球をきれいな状態ときれいな水と美しい緑に囲まれた地球を、次の世代に、子孫達に少しでもこと、一口に言えば、平和運動は地球をどうにすること、地球を破壊から守ることだというようなことですね。私自身、このことを強調して来たというようなことでもあったと思います。

**坂下**　このIPPNWの活動は、広島・長崎の原爆をとっかかりとして始まり、今はかなり全国になってきておりますが、まだ無関心の人もおられますね。地元である広島・長崎の医師はもちろん、他の地方の先生方もこの平和運動というものは、とかく高度な専門的な問題を扱う為に結論がありますね。IPPNWだけはそうなって欲しくありません。日本支部に入会されたい方は、広島県医師会、宇品広島市西区横川町二――――電話〇八二―二三二へお問い合わせください。他に、看護婦関係団体位でも結成して一緒に入会という手段を踏んでおります。いずれ日本医師会にIPPNW日本支部を設置して貰って、皆さんの為って頑張っているところです。

**門前**　IPPNWは核戦争防止の運動なんですよ、といって戦争というものを放置している訳ではない。戦争はどんな戦争でもそうない。平和を守るためには、医師はどうするかです。

**堀**　ブッシュの方だったと思います。

**川端**　第一次大統領で毒ガス兵器を使いましたが、大戦後十年で、毒ガスは使うまいという国際協定によって使わなくなったんですね。核も、こんな物騒なもん使うまいや、と思い合ったいい、毒ガスをやめた人類だから出来そうなものだと思うんですが……。

**堀**　この間はアメリカ人の変化を色々ありましたが、ソ連は二百しっ最初が本軍でしたが、アメリカ、ソ連で共通したことがひとつあるんです。これはSDIは絶対対だということは絶対よくないということなんですね。あセッションでもこのことは言われていました。アメリカの方々自身のおもしろかったのは、結局レーガンによって軍事費がかかりすぎたということを言われるんですね。過去三代の大統領の軍事費と、レーガン一代の軍事費が同じだと言うんです。これをもう少し節約していたら、今のアメリカの財政赤字はないのにというのが、アメリカの方の主張でした。だから軍拡は互いにやめようということなんです。これをやめれば……、ゴルバチョフの発言の裏も見えてきますね。結局は経済が問題なんです。軍拡、軍縮で、もうパンクしているんです。

**川端**　互いにもう軍拡でくたびれているんですね。

**堀**　街を歩いていても、軍人はかっこいですからね。世界に行ってもそうです。連警察にお金がかかり過ぎますね。それを減らして結構なことと言ってますが、経済が両方ともパンクするというお金の事情があるから、両方の会議も進めようまいくんじゃないでしょうか。そのためにもIPPNWは経済的な働きかけをすることも必要ではと思います。IPPNWだけでやっていたのではダメで、やはり政治に反映されないといけませんね。今度IPPNW世界大会はカナダのモントリオールに続いて広島で開催と決定した訳で、広島大会を踏まえ二年先の実践情勢がどのようになっているかですね。IPPNWなんか必要のない世の中になっていってくれれば一番いいんですが、どうでしょうかね。広島大会ともいを出点として、ひとつの分岐点になってくれればと思います。そういう意味で広島大会は絶対成功させたいですね。

**川端**　ケルンの百長が、政治家は生命を賭金に挑戦する義務がある。医師は職業の上で生命を守る義務があるというようなことを言っていましたが、医師の方はその推進はよくわかっているんです。例えば、ドクターストップにしても、医療の現場に出て、これは大変だということで、すぐマッカーサーに聞きかけ、医療を十二ドル出してもらったようにということを言葉に言ったらしいですね。そうしたら広島の被爆記録が分りにくい大変だから、これを世界に知らせるはいけないということです。医師がなんぼ言っても、結局は社会を推動かしているのは政治なんですね。だから、政治を動かすような大きなパワーを持ってこないとダメですね。

**堀**　IPPNWも政治家を動かすという方向に今向いてきていると思うですね。今回のモスクワ大会もそうです。

**川端**　そうなれば、結構活動としては大きな成果ですね。

**門前**　一番いいのは、やはり国連への働きかけでしょうね。

**川端**　IPPNWも何とかして日本医師会に働きかけ全国的な運動、市の医師会に理解してもらうようにしないと、まだまだわかっていない人が多いと思いますね。

**堀**　まあ、何回も言うようですが、広島・長崎の医師の使命として、特に体でやってきたいと思います。被爆地医師の貴重な被爆体験から出発したのことですから、広島の医師としてIPPNWをさらにして、盛り上げてゆきたいですね。日医ニュースにも時々載せてゆきたいと思います。この夜は日医ニュースに無とスペースをもらえましたので、しかし全国的ということになると、まだまだ少し時間がいるかも知れませんね。

**門前**　バンクーバーからきた被爆者は、首掛にPeace for children というバッジをつけていたのが印象的でした。

**堀**　IPPNWでも二つのセクションは子供のための平和というのがあります。小児科の人達のグループなんですが、世界小児科学会がシンポジウムに取り上げるくらいですから……。医科総理者から子供を守るために、はどうしたらいいかという考え方に立って、核戦争を子供にどう教えたらいいかというディスカッションのコーナーがあります。

**門前**　小児科の先生方とそういう会を作っていますが、精神科の先生方も多いようですね。聖マリアンナ医科大学の精神科の人が核を管理したらどうなるかということですが、いつも問題となることですね。この二つのセッションは、独立って出ていますね。サンフランシスコの有名な精神科医でシェイプロという医師が核廃絶に熱心ですね。

## 芸術の分野では

**堀**　まあ長い話ばかり続きますが、ひとつ芸術の話を……。

**門前**　そりゃあ川端先生にお任せしますよ。

**堀**　ケルンに行かれて、絵心が湧かれるような感覚がございましたか。

**川端**　どこへ行ってもあるんですよ。あるというのはおかしいですけれど、平和見ない基盤に触れると絵のせいもあるんでしょうが、感動するんです。ああいいなと思うと、すぐ表現してみたくなりますね。しかし、戦争、平和、芸術とすると、その表現は難っぱくなるでしょうね。

**門前**　政治的に利用されることもあるでしょうね。

**川端**　戦時中に「戦争画」というのがありましたよね。「大東亜戦争絵画展」というあの時の三十数名の有名な絵描きが描いた絵で……。今考えたら軍部の命令だったでしょうけど、結局には戦争協力という形になり、戦後は一時、戦犯画家と言われたりしてね。

**今中**　絵描きは絵だけ描けばいいかというと、そうではないんですね。描く絵も題材

んですね。

**門脇**　戦争を礼讃するような絵ではいけない、絵だけじゃなくって、音楽も文学もそういうことが言えると思いますね。

**堀下**　HPPNWは芸術、宗教、政治にとらわれずに人間性に基づいたものじゃないといけないでしょう。

**川端**　確かにそうですね。芸術というのは自由でなくちゃならない。ものごとを正しく見ることも、絵ってこともできないとなると、創造性は発揮できんでしょう。

**門脇**　現実はそうはいきませんね。どうしても政治的なものが絡んでくる。いかなるものにも妥協しないでやっていけるかということです。

**川端**　政治に利用されるかどうかということですが、人間性を失なわず、自己の良心を生かすためなら政治的であってもいいんじゃないですか。HPPNWではポスターを作成していますね。大会自体のものと、一般から応募したものとがあるようですが、なかなか好評です。

**堀下**　「広島アピール」のポスターは、グラフィックデザイナーにまかせるのだけに説得性、政治性ともにいいですね。

**今中**　絵だけもポスターの方が訴える力が強いんですから。

**川端**　戦争体験、いわゆる「レベリアーンリーズ」の世代世代、「初年兵教育」の出征時明なと、口に出さず反戦を訴えているんですね。ピカソの「ゲルニカ」なんてのは無差別爆撃の恐怖に対する怒りで、訴える力はすごいと思います。ポスターでは、被爆体験者の方固様（笑）とか、人の作品が印象に残っています。直接的に戦争を表現や原子爆弾やシャレコウベ、鉄カブトなどで表現せず、イメージでラフ・ピースを高い方へ向けている。しかも訴える力は強いんです。

**今中**　原爆をテーマにしている文学作家、俳句を書いますね。

**堀下**　二年後は広島でHPPNW世界大会が開催されます。芸術的にもすぐれたポスターを作りたいですね。

とまで、今年均等年が過ぎて及びて五年、八十年ということですが、それだけ歳月を経る時間が長くなった訳です。これをどうやってやるかということです。

**門脇**　まじめで責任感の強い仕事人間だったんの残、定年後どうして暮らそうかということになる。また、趣味でもあればいいんですけど。

**今中**　趣味といっても年をとってからではもう遅いし、若い時代から、二十代、三十代頃から余生のために絵でも描いたり、歌でも作ったりの準備づくりをしておかんとね。

**川端**　学生時代とか、サラリーマンの頃とか若い時に趣味コツを覚えたらいいですよね。それと、我々としてからも、若い人や、仕事以外の人達と付き合うことでしょうね。

**堀下**　そうでない人は、この「被爆芸術」でも読んで、老後のガイドラインにするのも一案かもしれませんね。さてこの芸術という問題につきましても、今日の座談会でいろいろお話いただいたような様々な時の体験とか、芸術だけでなく、海外でも行われている被爆者絵画のこと、あるいは、年後に広島で行われるHPPNW世界大会といった線上で紙のでみますと、もう少し突込んで考えてみたいこともありますし、こうした問題意識をふまえた作品を、広島の芸術の手で作ってほしいというような気持ちを強いてきますが、もう時間もだいぶたちましたので、いろいろ終わらせていただきます。

どうも、ありがとうございました。

（文責・渡辺　晋）

## 編集後記に代えて

当初、埋もれていた座談会を掘り起こして一冊にまとめる予定が、「あれも、これも」とついに上下二巻に化けさせる羽目となり、上巻発行後、すぐに巻末と準備を進めていたのですが、今日、やっと晴の日を迎びました。多くの会員および企業の多大なご協力をいただき感謝です。

上巻の『解体新書……』は続編と合わせて一冊です。同様に「雅楽小説あれこれ」も今巻の「探偵作家座談会」が続編です。かつては三千数ページにおよぶ座談会を2か月連続で掲載していました。映画監督座談会の新藤兼人氏、原子健氏、（現在は故田中絹代氏）と自任山本嘉次郎監督をゲストに迎えて、武場隆二郎氏との懇談も「映画よもやま話」と、翌月の「映画用語」とが紙数のため、一気に掲載しました。

昨年は戦後六十年、マスメディアを先頭に、世間では数々の企画がありました。医家芸術でも、これまでに昭和史特集などの企画がありましたが、この特集号では南海の激戦地から奇跡的に生還した方々の「戦争体験」談を収容しました。戦局に対する指揮官の冷静な判断が、玉砕という無謀な“集団自殺”を避けることができた事実を知って感動しました。実はこの座談会以外にも会員の体験談があり、収録できればベストだったのですが、紙数の都合で断念しました。

原爆問題と取り組む広島医師協会の座談会を落とすわけにはいきません。投下直後の凄惨な状況、永年にわたる原爆症の苦しみに直面、核兵器廃絶を世界へ訴え続けている皆さんの意見は貴重なものでしょう。（o）


**医家芸術　第50巻　臨時特別号**
（書肆ランコー九特集　下巻）
平成十八年七月一日発行
頒布価格　一〇〇〇円
（送料　五十二円）
編集兼発行人　太田　怜
発行所　日本医家芸術クラブ
「医家芸術」編集所
〒一八七―〇〇一一
東京都小平市学園東一―一―一三
電　話　〇四二―三四四―八〇二六
FAX　〇四二―三四四―八〇二九
郵便口座　〇〇一二〇―一―一七一八四
印刷所　あづま堂印刷株式会社